

事業所の概要表

(令和 4年 10月 15日現在)

事業所名	グループホーム福寿草					
法人名	合同会社和楽					
所在地	愛媛県南宇和郡愛南町御荘平城2829-1					
電話番号	0895-72-7110					
FAX番号	0895-72-7112					
HPアドレス	https://www.gkwaraku.co.jp/hukujusou/					
開設年月日	令和 2 年 1 月 1 日					
建物構造	☒ 木造 ☐ 鉄骨 ☐ 鉄筋 ☐ 平屋 () 階建て () 階部分					
併設事業所の有無	☒ 無 ☐ 有 ()					
ユニット数	2 ユニット		利用定員数	18 人		
利用者人数	18 名 (男性 0 人 女性 18 人)					
要介護度	要支援2	0 名	要介護1	3 名	要介護2	4 名
	要介護3	5 名	要介護4	4 名	要介護5	2 名
職員の勤続年数	1年未満	0 人	1～3年未満	2 人	3～5年未満	1 人
	5～10年未満	7 人	10年以上	5 人		
介護職の取得資格等	介護支援専門員 2 人		介護福祉士 9 人			
	その他 (		准看護師1名)			
看護職員の配置	☐ 無 ☒ 有 (☒ 直接雇用 ☐ 医療機関又は訪問看護ステーションとの契約)					
協力医療機関名	医療法人 竹本医院 ・ あさみ歯科医院					
看取りの体制 (開設時から)	☐ 無 ☒ 有 (看取り人数: 2 人)					

利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(月額)	26,000 円	
敷金の有無	☒ 無 ☐ 有 円	
保証金の有無	☒ 無 ☐ 有 円 償却の有無 ☒ 無 ☐ 有	
食材料費	1日当たり	1,200 円 (朝食: 300 円 昼食: 400 円)
	おやつ:	100 円 (夕食: 400 円)
食事の提供方法	☒ 事業所で調理 ☐ 他施設等で調理 ☐ 外注(配食等) ☐ その他 ()	
その他の費用	・ 光熱費	5,000 円
	・ 共益費	8,000 円
	・ おむつ代	実費 円
	・ 理美容費	実費 円

家族会の有無	☒ 無 ☐ 有 (開催回数: 回) ※過去1年間	
広報紙等の有無	☐ 無 ☒ 有 (発行回数: 12 回) ※過去1年間	
過去1年間の 運営推進会議の 状況	開催回数	6 回 ※過去1年間
	参加メンバー ※□にチェック	☒ 市町担当者 ☐ 地域包括支援センター職員 ☐ 評価機関関係者
		☒ 民生委員 ☒ 自治会・町内会関係者 ☒ 近隣の住民
		☐ 利用者 ☐ 法人外他事業所職員 ☐ 家族等
	☐ その他 ()	

サービス評価結果表

サービス評価項目

(評価項目の構成)

I.その人らしい暮らしを支える

- (1)ケアマネジメント
- (2)日々の支援
- (3)生活環境づくり
- (4)健康を維持するための支援

II.家族との支え合い

III.地域との支え合い

IV.より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー
“愛媛県地域密着型サービス評価”

新型コロナウイルス感染防止対策を十分おこない
訪問調査を実施しております

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市三番町6丁目5-19扶桑ビル2階
訪問調査日	令和4年11月17日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数)	17	(依頼数)	18
地域アンケート	(回答数)	10		

※アンケート結果は加重平均で値を出し記号化しています。(◎=1 ○=2 △=3 ×=4)

※事業所記入

事業所番号	3894000110
事業所名	グループホーム福寿草
(ユニット名)	もみじ棟
記入者(管理者)	
氏 名	村上みどり
自己評価作成日	令和 4 年 10 月 15 日

【事業所理念】※事業所記入 尊厳ある 笑顔のたえない 自分らしい生活	【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】※事業所記入 ・記録用紙の見直しを行い記録の整理・整頓をし、職員間で共有できる。 記録用紙を簡潔にし誰が見てもわかりやすいものに変更し進行中、経過見直しを行っている。記録記入の勉強会を実施。 ・役割や、楽しみごとへの支援 おやつ作りの実施・新しいリハビリ体操・共同作業の制作づくりを行い楽しみが増えている。	【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】 敬老会の日は、法人代表者から利用者一人ひとりにお祝いの品を手渡した。クリスマス会には愛宕町のゆるキャラがきたり、職員が出し物をしたりして利用者を楽しませた。 家族とは、SNSを活用してリアルタイムに写真や動画を送ったりしてやり取りをしている。5家族程度は、タブレット端末を使ってオンライン面会を支援している。 今秋も近くの保育園の運動会に参加できなかったため、10月には保育園の園児が駐車場まで来て、踊りを見せてくれた。米は地元農家から購入しており、野菜についても毎週火曜日に新鮮な旬のものを持って来てもらっている。野菜は職員も購入している。
---	---	---

評価結果表

【実施状況の評価】
◎よくできている ○ほぼできている △時々できている ×ほとんどできていない

項目 No.	評価項目	小 項目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
I.その人らしい暮らしを支える									
(1)ケアマネジメント									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	○	入所時に意見を聞いたり、生活の中で何か希望や意見がないか聞き出すように努めている。	◎		◎	入居時に、職員は利用者や家族から、「どのように過ごしたいか」などの聞き取りをしている。 自宅で暮らしている方の入居が多く、以前のケアマネジャーからも情報を得ている。 入居後は、一週間程度暮らしの様子を観察して、その中で希望を聞く等しながら課題分析表を作成し、把握に取り組んでいる。
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	○	以前の生活での様子を参考にしたり、更新時に記入している「私の気持ちシート」を活用し本人の思いを考える時間を設けている。				
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	○	入所時や面会時、本人についてお話を聞いたり、家族と密に連絡を取り合い本人の思いを把握している。				
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	○	日誌、介護記録を活用し職員間で共有している。訴えや行動に関してもケース記録に記載し共有している。				
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	○	職員の思い込み、決めつけで対応しないよう、本人の思いをくみ取りながら対応している。変化があれば職員間で共有している。				
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	○	入所時に本人、家族から聞き取りを行い、入所後もシートを活用し、本人の今までの生活、習慣などを把握している。			△	入居前に利用していた介護サービスからの情報を個人ファイルに綴じて参考にしている。 入居時に利用者や家族から聞き取った情報をアセスメントシートに記入しているが、日常生活動作に関する情報が主になっている。 利用者のこれまでの情報は、家族からよりも、地元の知人からの方が得られる場合があるようだ。 さらに、生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、すべての職員で情報共有できるように取り組みを工夫してはどうか。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態(身体面・精神面)や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	○	生活の中でレクリエーション、家事手伝いを行って頂き、本人の現状把握ができるよう努めている。				
		c	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握に務めている。(生活環境・職員のかかわり等)	○	入所後1週間程度は24時間シートを活用し本人の現在の様子、生活リズム、思いがつかめるようにしている。				
3	チームで行うアセスメント (※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	○	カンファレンス時に話し合い、本人の視点に立って本人にとっての良い暮らしができるように努めている。			○	介護計画見直し時のケアカンファスは、職員が日々の中で得た情報を持ち寄り「本人の思いや本人がどうしたいか」を話し合っている。
		b	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題の把握に努めている。	○	カンファレンス、申し送り時に出た課題については、全職員が把握できるようにスタッフ会時に再度伝達している。				
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	○	現状で本人にとっての思い、要望を取り入れた内容になるように作成している。				利用者の状態によっては医療関係者の意見を聞いておき、ケアカンファレンス時に職員で話し合い、計画を作成している。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	○	本人に関わる方達からの意見も取り入れなが話し合い作成している。	○		○	
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	○	本人の状態に合わせて心地よく生活して頂ける内容になるよう作成している。				
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	○	コロナ禍で地域の方達との接触は持っていないが、家族にも協力して頂ける内容になるよう作成している。				
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	○	介護記録記入時に介護計画を元に記入するようにしている。			◎	介護計画は、介護記録と一緒に個別クリアファイルに入れて共有している。 今年3月から記録方法の改善に取り組んでいる。介護計画の支援目標に番号を振り、計画に沿ってケアを実践できたら、介護記録にその番号と支援した内容を記録している。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを個別具体的に記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	○	介護記録にも記入し申し送り時などにも話し合っている。			◎	

項目 No.	評価項目	小 項目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	○	3カ月ごとにカンファレンスを行い見直しをしている。			◎	管理者が一覧表をつくり、期間を管理しており、3カ月ごとに見直しを行っている。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	○	ケアプランのチェックと介護記録記入は毎日実施している。月1回のスタッフ会でも話し合いを行っている。			○	利用者個々の担当職員が毎月、介護計画の実施内容をまとめているが、さらに、日々、介護計画を実践した記録と連動するような内容に工夫をほしい。毎月のスタッフ会時には、介護計画にかかわらず、利用者の現状について話し合っている。
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	○	利用者の状態の変化が見られたらすぐに管理者に報告し、随時見直しを行い新たな計画を作成している。			○	身体状態に大きく変化があったような場合に見直しを行っている。この一年間では、事例はないようだ。
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	○	3カ月ごとのカンファレンスにおいて課題を提示し改善に向けた話し合いを行っているが緊急時はミーティングを実施話し合いをしている。			◎	毎月、スタッフ会(全体会)を行い、後の時間にユニット会を行い議事録を作成している。法人代表者も参加している。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	○	それぞれの職員の意見を聞いている。率直な意見が出て話し合いができています。				
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫するとともに、参加できない職員にも内容を正確に共有している。	○	毎日必ず申し送りの時間があり伝達漏れないようにしている。回覧を回し押印している。			◎	スタッフ会時に次会の日程を決めておくことで多くの職員が参加できるように取り組んでいる。議事録は、職員個々が内容を確認して押印するしくみをつくっている。
8	確実な申し送り、情報伝達	a	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	○	日誌、ケース記録を全員がみて申し送りでも伝達している。業務連絡等はグループラインを利用している。	◎		◎	業務のことや家族からの連絡事項等は日誌に記入し、申し送っている。必要時には、さらに口頭でも補足をしている。
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切に支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	○	利用者との声掛けやふれあいを通して思いをできるだけ叶えるようにしている。				
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくらしている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	○	声掛けによって本人の希望をなるべく聞くように心掛けている。			○	「何食べたい?」「何をしたい?」等、利用者に聞きながら支援している。ドライブの行き先を決めてもらったりしている。
		c	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切に支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	○	利用者から思いや希望を話してもらえよう会話やふれあいの時間を持つように心掛けている。個々のペースに合わせて対応している。				
		d	利用者の生き生きとした言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉かけや雰囲気づくりをしている。	○	利用者が自然な状態で日常生活が送れるよう声掛け、介助に気をつけている。			◎	敬老会の日は、法人代表者から利用者一人ひとりにお祝いの品を手渡した。クリスマス会には愛南町のゆるキャラがきたり、職員が出し物をしたりして利用者を楽しませた。手持ち無沙汰な様子で落ち着かない利用者について、家族と相談し、以前の職業なども踏まえて職員が人形を用意することを試した。本人は、気持ちが落ち着き、人形をととてもかわいがっている。
		e	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	○	本人の表情、反応に注意しできるだけ意向に沿うよう心掛けている。				
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切に言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。(人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮、目立たずさりげない言葉かけや対応等)	○	スタッフ会などで気になる事や意見を述べ話し合っている。個人の人権や尊厳を常に意識している。初心を忘れず目上に対する敬意を忘れないように心掛けている。	○	○	○	地域包括支援センター主催の虐待防止に関する研修等で勉強をして報告書を作成し、スタッフ会時に内容を周知している。またスタッフ会時の勉強会で学んでいる。法人代表者は、週3回程度事業所を訪れ、必ず、利用者一人ひとりに挨拶をしている。スタッフ会時には、管理者が口頭で接遇やケアの注意点などについて話している。「まだまだできます」「大丈夫です」という利用者への支援については、「ここだけお手伝いいただけますか」と聞きながらサポートをしている。
		b	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮しながら介助を行っている。	○	声掛けや介助時の態度は常に注意して行っている。				
		c	職員は、居室は利用者専有の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	○	居室入室時はノックや声掛けを必ず行い許可を頂いている。			○	居室入室時はノックしたり、本人に許可を得たりしていた。
		d	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	○	あってはならないことと認識し常識として遵守している。研修も受けている。				
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けてもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	○	家事の手伝いをして頂いた時には「ありがとう」と感謝の気持ちを伝えるように心掛けている。				
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	○	共に過ごす時間を重ねることによりお互いに心通じ合う気持ちになっている。				
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるよう支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらう場面をつくる等)	○	それぞれの利用者が居心地よく過ごせるように席の位置や家事分担仕分けに気をつけている。			○	他利用者の言葉を気にする様子がみられた時には、席を替えたり、少し距離をとったりできるよう配慮をしている。洗濯物たたみや新聞折りなどは、複数の利用者で行う場面をつくっている。
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	○	トラブルの状況をよく理解してお互いの話をよく聞き解決に努めている。				
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係や馴染みの場所などについて把握している。	○	コロナ禍で面会が少なくなっているができるだけ家族や本人との会話により人間関係を把握している。				
		b	知人や友人等が気軽に訪れたり、本人が知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていったりなど、これまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	○	これまでの関係が途切れないように気をつけ本人家族からの会話から情報を入れ支援している。				
13	日常的な外出支援	a	利用者(および意思表示が困難な場合はご家族)の希望に沿って、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない) (※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	○	感染の状況を見計らい日光浴やドライブにて車中より外の景色を見る等、徐々に戸外へ出ている。	○	△	○	玄関先で花の植え替えをしたり、今夏は、夕方、花火をしたりした。地元のひまわり畑を見に行ったり、正月には初詣に出かけたりした。今秋は、地元の神輿見学を支援した。管理者は、知り合いのところに柿をもらいに行くような時に、利用者を誘って一緒に連れており、利用者の知り合いにばったり会うということがあった。ドライブで個々の出身地を訪ねた際には、家族にばったり会うということがあった。
		b	家族、地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	△	感染時期でもあり主に家族の協力を得てサポートしている。				

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
14	心身機能の維持、向上を図る 取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	○	認知症の研修会への参加、カンファレンス時職員の意見を出し合ってケアに活かしている。				この一年間では、利用者の入れ替わりがあり、自立度の高い利用者が増えた。活動については、午前と午後に体操の時間をつくったり、頭を使うゲームや廊下の歩行等を採り入れており、体操は、職員も一緒にやっている。 室内で運動会を行い、いろいろな競技をすることで身体を動かせる機会をつくっている。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	○	本人の身体状況を把握して残存能力が維持できるように取り組んでいる。				
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	○	声掛けや関わり方を工夫して本人ができることを見守り、一緒にやっている。	◎		◎	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの 支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	○	利用者との会話の中に生活歴や希望を引き出す話しかけをして、楽しみごと、役割になる事を把握している。				掃除をしたり、洗濯物をたたんだり、花を生けたり、食事の下ごしらえをしたりと、個々にできることを行えるよう支援している。 調査訪問日には、吊るし柿用に、利用者と職員で柿の皮むきをしていた。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、ホームの内外で一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	○	利用者それぞれの状態に合わせた場面づくりを心掛け楽しみや役割を作る工夫をしている。	○	○	○	
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つと捉え、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	○	本人の好きなものや大事にしているものは把握していてその人らしさを支援している。				利用者それぞれに、季節に合った清潔で似合う服を着て過ごしていた。 トイレから出てきた利用者に管理者は、たわいのない話をしながら衣服の乱れを直していた。 2か月に1回、訪問美容師が来ているが、髪が長くなったような利用者には、本人に確認して器用な職員がカットをしている。 「服が欲しい」と希望する利用者には、個別に買い物に同行するケースがある。また、職員が利用者の状態に応じて脱ぎ着のしやすいものを買ってくることもある。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みに整えられるように支援している。	○	本人の好みや個性を維持できるような身だしなみに気を遣っている。				
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	○	本人の気持ちに沿ってアドバイスしている。				
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせたその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	○	コロナ禍で外出もなかなかできていないが施設内の行事などには場面に会う支援をしている。				
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にできさりげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	◎	起床時や食後の整容など気をつけている。さりげなくカバーしたり声掛けにてお手伝いしている。	○	◎	◎	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	○	コロナ禍で店には行けていないが施設内で散髪、希望があれば毛染めもしている。				
17	食事を楽しむことのできる支援	g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	○	散髪は訪問美容師に依頼し感染蔓延時は様子を見て訪問依頼している。			○	米は地元農家から購入しており、野菜についても毎週火曜日に新鮮な旬のものを持って来てもらっている。職員は、週2回、食材の買い出しに行っており、魚も新鮮な旬のものを採り入れている。 カツオのたたきや冷や汁、めのり(巻かずし)など、利用者の馴染みのある献立を採り入れたり、味付けなども慣れ親しんだ味付けにしている。 利用者それぞれに自分用のものを使用している。 職員は利用者と同じものを食べており、利用者の食事中は介助したり、少し離れた場所で見守りしながら食べたりしていた。 調査訪問日は、カブの葉菜寿司をつくる合わせ酢のにおいがしていた。 居間の小さいホワイトボードに、職員が今日の献立を書いて、話題にしている。 栄養委員会の献立のバランスを管理している。 利用者は年齢的に超高齢に近いが、活動的な人が多く、管理者は利用者により「しっかり食べて、栄養を取ってもらいたい」と考え、利用者の馴染みのある魚料理や好物のばら寿司を献立に採り入れている。
		a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	○	食事の楽しさを支援し、食材の選択、調理方法、食生活の大切さを理解している。				
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	○	利用者の好みを聞き献立に反映している。食後のお手伝いも願っている。			○	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	○	利用者ができることはお手伝いしてもらっている。一緒におやつ作りは喜ばれている。				
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	○	入居時家族、本人からの情報を記録し職員間で共有している。				
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえて、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔ながらの味などを取り入れている。	○	家庭料理を基本にして旬の食材を取り入れている。			◎	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせた調理方法として、おいしいそうな盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いれどりや器の工夫等)	○	食欲がわく盛り付け、色どりを工夫、体調や身体機能考えた調理方法を考えている。				
		g	茶碗や湯飲み、箸等は使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	◎	利用者の持参した食器を使用している。好みの色や軽い食器など。			◎	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事と一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	○	コロナ禍で一緒に食卓を囲むことは出来ていないが介助、サポートを行いながら個人のペースで食事して頂いている。			◎	
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	○	調理の方法、臭い、色合いを感じてもらったり、内容を説明して美味しく味わってもらっている。	◎		◎	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べれる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	○	ひとり一人の体調や食量・水分量のチェックを行い、減塩を心掛けている。				
		k	食事が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	○	それぞれの食量や水分の摂取量をチェックして少ない時は補助食品で補っている。				
		l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	○	栄養委員会の献立を中心にバランスの取れた内容に近づけている。雑誌等を参考に検討している。			◎	
		m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	○	食材の購入時鮮度に気をつけて購入、調理器具は毎回消毒している。				

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	○	口腔ケアの研修を参考に理解し介助している。				歯科衛生士の資格を持つ管理者を中心に、利用者一人ひとりの口腔内の状況の把握に取り組んでおり、歯並びのイラストに現状を記録して把握している。また、義歯の写真を保存している。舌の状態は色などを気にして観察している。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	○	個々の口腔状態を把握し異常があるときは受診に繋げている。			◎	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	○	必要時は情報を得て参考に介助している。口腔体操を取り入れ実施している。				
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	○	本人ができることはして頂き誘導、一部介助している。				
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないよう、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック、歯科医の受診等)	○	本人ができることはして頂き、清掃後確認したり清潔で気持ちよく過ごせるように注意している。			○	
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きていく意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	○	基本排泄はトイレを目標に支援し研修会で学んだことを話し合い理解に努めている。				ユニット会時や日々の申し送り時に利用者の状態や気づきをもとに話し合っている。職員からの提案があれば、数日間試してみても支援を検討している。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	○	食事内容や水分量、運動不足など便秘の要因になりそうなことを理解し気をつけている。				
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	○	排泄の記録や日々の状態変化の理解に努めている。				
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	○	排泄チェック表でパターンを把握し声掛け、トイレ誘導へつなげている。	◎		◎	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	○	トイレでの排泄が困難な方は排泄パターンを理解してトイレに誘導したり早めに時間を決めて対応している。				
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	○	個々のパターンや兆候サインを察知し早めに誘導できるよう支援している。				
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方向的に選択するのではなく、どういった時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	○	日中と夜間ではオムツの種類を考え、本人にあったものを検討し対応している。				
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けている。	○	本人の状態に合わせて適宜使い分けている。				
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	○	食事時は繊維質を取り入れ、水分補給を促し、排便を促すようにしている。				
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)。	○	ほぼ2日に1回は入浴して頂いているが、希望があればその都度対応して毎日入浴される方もいる。	◎		◎	基本的には、2日に1回、午後からの入浴を支援している。中には、毎日の入浴を希望する人があり、応じている。一番風呂の希望、同性介助の希望にも応じている。利用者の希望で入浴中は浴室の戸を開けて、ひとりで入ることを見守るケースがある。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分で入浴できるよう支援している。	○	本人の能力をみて過剰な支援を控えゆっくりくつろいで頂いている。				
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	○	声掛けしブライバシーを守りながら能力を生かせるよう支援している。				
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせず気持ちよく入浴できるよう工夫している。	○	無理強いせずタイミングをずらしたり、原因を検討し対応している。				
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	○	バイタルに異常があれば管理者とも相談の上決定し無理強いしない。入浴後は必ず水分補給を行っている。				
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	○	チェック表を参考に本人の睡眠パターンを妨げないようにしている。				精神科で強めの薬を飲んでいただいていた利用者について、入居後、生活リズムを整え様子をみながら中止につなげたケースがある。服薬中止後は、本人の方から話しかけたり、会話したり笑ったりすることが増えているようだ。入居前から睡眠導入剤を使用している人で、使用することで「安心する」という人には継続して様子をみている。薬剤を使用するが短時間で目が覚めてしまい、日中ウトウトするなど、個々の状況をみながら医師と相談して薬剤の調整や変更等を試している。夜間帯は静かにして室温や照明に配慮している。また、どうしても眠れないような人には熱いお茶を用意するなどして様子をみている。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	○	無理には入眠を促さず、ゆっくりとテレビを観てもらったり気分転換をサポートしている。				
		c	利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	○	1日の行動を把握し異常があれば看護師や主治医と相談の上支援している。			◎	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	○	本人が希望したときは居室で休んでもらっている。居室の環境を整えている。				

項目 No.	評価項目	小 項目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	○	個人で携帯所持の方もおられ、相手も了解で連絡されている。職員立ち合いにてビデオ通話やラインを利用しやり取りしている。				
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	○	毎月のお便りを使用し最近の状態を伝えている。電話時は家族に本人の声を聞いてもらったり、家族に声掛けしてもらっている。				
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	○	希望があれば一緒に支援している。相手の時間も考慮し手助けしている。				
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	○	自室に手紙や写真を貼ったりして見えるようにしている。本人からも説明を受け連絡の支援をすることも多い。				
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	○	施設のラインを活用し都合の良い時に電話やテレビ電話を行っている。				
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	○	本人所持が厳しい方もおられる為お預かりし、必要時は本人が使う事の意味や大切さは理解している。				
		b	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	○	移動スーパーで買い物をしてもらい支払ったり、衣類などは職員が代行している。感染状況を見ながら最近衣類購入に出掛けた。				
		c	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	○	状況に応じて買い物ができるように支援している。				
		d	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	○	入所時に本人、家族と話し合い預かりしている。必要時は本人が財布から支払うこともある。				
		e	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしておき、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	○	入所時に本人家族と話し合い施設で預かっていなければならないようにしている。ルールができていて同意を得ている。				
24	多様なニーズに応える取り組み	a	本人や家族の状況、その時々のニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	○	カンファレンス時話し合いそれぞれに合わせた対応をしている。	◎		◎	現在、利用者の受診は職員が付き添って支援している。利用者からの希望で買い物の代行等をしている。遠方にいる家族から面会の要望があり、広い会場で距離を持って面会ができるように支援したようなケースがある。
(3)生活環境づくり									
25	気軽に入れる玄関まわり等の配慮	a	利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	○	ベンチや椅子を用意しいつでも外で話ができるように、お花を植えたり楽しみのある空間づくりに気をつけている。	◎	◎	◎	事業所は平屋のつくりで玄関を中心にして左右にユニットがある。玄関周りは掃除が行き届き、プランターにビオラなどの花を整備している。玄関前の駐車場の一角に屋根を付けてベンチを置き、外で過ごせるような空間をつくっている。
26	居心地の良い共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものか置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えになっていないか等。)	○	家庭的な雰囲気が出るように毎日清掃し飾りつけをしている。	◎	◎	◎	玄関、ユニットの入り口はガラスで中の様子がうかがえる。建物は木の暖かみを感じる造りで、調度品なども馴染む色合いのものを整備している。掲示板に事業所便りなどを掲示していた。
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	○	定期的な換気、排せつ後は消臭スプレー使用など悪臭がないよう気をつけている。清潔な空間を保つ努力をしている。			◎	窓からの自然光が入り、居間は明るい空間になっている。職員が小まめに掃除をしており、気になるような臭いなどは感じなかった。時間によって音楽をかけており、食事中はテレビをつけていた。
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	玄関やベランダで外気浴をしたり、臥床時間が長い方は居室から外の音が耳に入るよう工夫している。			◎	事業所は高台に立地しており、居間の窓からは空や山、木々が見えて季節や天気などがよくわかる。毎月、花を生ける機会をつくっており、利用者が季節感を感じる機会にもなっている。
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	○	ソファや椅子などで談話できるようにしている。(居室内にソファを配置)本を読んだりテレビを見たりと思い思いに生活できている。				畳の間に大きい日めくりカレンダーを設置していた。
27	居心地良く過ごせる居室の配慮	a	本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	○	家で使っていた家具を持参されている方もいる。居室で好きなテレビ番組を観て過ごされている。	◎		◎	テラス側の居室は窓からの見晴らしがよい。掃き出し窓の外には植物を育てていた。転倒のリスクのある人には、ベッドの足元にクッション性のあるタイルカーペットを敷いていた。ご主人の位牌は、テレビの横の棚の2番目に置き、本人がベッドに寝た状態で見えるようにしていた。
28	一人ひとりの力が活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、混乱や失敗を防ぎ、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	○	トイレの目印や口腔ケアの場所の目印を作りわかりやすくしている。			◎	トイレにはトイレと表示していた。居室には表れをかけている。
		b	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ほうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	○	いつでも使用できるように、馴染みの物を配置している。危険なものは前もって気をつけて配置している。				昼食後、利用者が手すりを伝いながら洗面所まで行く様子がみられた。歩行器や杖、シルバーカーなどを使用して歩行することを支援しており、歩く際の障害になるものは置かないようにしている。
29	鍵をかけないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害(鍵をかけられ出られない状態で暮らしていることの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)を理解し、日中は玄関に鍵をかけなくても済むように工夫している。(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)	○	研修で鍵をかけることによる心理的弊害を理解している。外出希望あれば職員が一緒に行っている。	◎	○	◎	日中、玄関やユニットの入り口に鍵をかけていない。スタッフ会時の勉強会で鍵をかけることの弊害について学んでいる。管理者は、利用者が一人で出かけていく様子が見られた時などを捉えて、鍵をかけることの弊害について説明をしている。
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	○	日中は鍵を掛けないことを家族にも理解して頂いている。				
(4)健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	○	入所時や事前に面談した記録を見たり、何か変化があれば日誌に記入、全員がわかるようにしている。				
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	○	更衣時や入浴時等変化がないかチェックして変化があれば報告し日誌やケース記録に記入している。				
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等いつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	○	気になる症状や状態があれば看護師や・管理者に報告指示をもらい、受診時に報告している。				

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	○	ひとり一人の受診内容を把握し、家族・本人が希望する病院へ受診している。	◎			
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	○	在宅時からの継続受診や本人、家族希望を継続している。				
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	○	通院は管理者が行い受診後は職員・家族へも状況を説明している。				
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	○	施設での状態を報告し本人にとってストレス軽減になるように情報提供している。				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、日頃から病院関係者との情報交換や相談に努めている。	○	病院のカンファレンスに参加し状態確認や情報の交換に努めている。				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	○	看護師が訪問するときには状態を伝え、指示やアドバイスをもらっている。				
		b	看護職も訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	○	体調の変化や気になる事があれば電話にて相談、その都度指示をもらっている。				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	○	その都度の状態変化に応じて対応して貰えるように体制を整えている。				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解し、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	○	処方内容を確認し、変化などがある場合は管理者へ報告。看護師、医師に連絡を取り連携を図っている。				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	○	服薬時チェック、誤薬や飲み忘れがないか名前、日付表に確認チェックしている。				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	○	変化があれば管理者に報告し看護師や医者へと連携し指示を仰いでいる。				
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	○	入所時に家族様とよく話しアンケートに記入してもらっている。状態の変化に応じてその都度家族へ報告話し合っている。				入居時には、「グループホームにおける重度化および看取りに関する指針」に沿って説明を行い希望を聞いている。その後は、状態変化時に話し合い方針を共有して支援している。 この一年間では1名の看取りを支援した事例がある。家族には、掃き出し窓から居室に入ってもらい、いつでも会えるように支援した。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけではなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	○	かかりつけ医や家族とも相談の上方針を決め情報を共有している。	◎		○	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	○	職員の思い、今できる能力を見極め、家族とも相談し方針を出している。				
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	○	家族や本人へ施設で対応できることを伝えその中で理解を得ている。				
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	○	その人らしく生きるためのカンファレンスを行い、できることの再確認作業をする。状態変化に応じて話し合う機会を設けている。				
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	○	訪問時には状態報告したり、家族の気持ちになり寄り添うよう努力している。				
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	○	研修会やスタッフ会時の感染症に関する情報を聞き理解に努めている。				
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	○	文書を回覧したり、スタッフ会時に研修をしている。				
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れ、随時対応している。	○	情報が入れればその都度参考にし随時対応している。				
		d	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	○	出勤時や退勤時感染予防について徹底出来ている。利用者や家族に対しても感染予防に気をつけて頂くようお話ししている。				

項目 No.	評価項目	小 項目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅱ.家族との支え合い									
37	本人をともに支え合う家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	○	面会時や連絡があった時は本人の状況を伝え、一緒に本人を支えていく関係を築いている。				新型コロナウイルス感染症対策期間のため評価はできない。 家族とは、SNSを活用してリアルタイムに写真や動画を送ったりしてやり取りをしている。5家族程度は、タブレット端末を使ってオンライン面会を支援している。また、管理者が管理する事業所用の携帯電話に家族などから直接電話がかかってきており、本人の暮らしの様子などを小まめに報告している。事業所便りのスペースに利用者個々の担当職員が日頃の様子を記入している。 毎月、法人から、面会方法の現状について知らせている。事業所便りに、行事や避難訓練の様子などを載せている。また、新しく入った利用者や職員を紹介している。6月号の号外は職員紹介をしており、全職員の顔写真等を載せて家族に送っている。5月には、食費の値上げについて文書で報告した。設備改修、機器の導入については特に報告は行っていない。運営推進会議の報告書等については送付していない。 家族と電話や面会時等のやり取りする機会に聞いている。
		b	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等、家族同士の交流)	○	現在は感染予防の為にできていないが感染の小康状態時は場面や機会を作る努力はしている。	○		評価 困難	
		c	家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的な内容を把握して、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	○	お便りを毎月発行しホームでの様子を報告している。ラインも活用し行事や普段の様子などムービーで送信し安心して頂けるように努めている。	◎		◎	
		d	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	○	本人の現状を伝える時も認知症であることも理解して頂き良い関係を築けるよう努力している。				
		e	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	○	毎月のお便りに運営上の事柄は記入し理解いただいている。	○		△	
		f	利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている。	○	リスクについて説明し本人にとって良い対応ができるように話し合っている。職員との信頼関係を築けるよう努力している。				
		g	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行うことで、居心地よく安心して過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	○	感染予防の為入室は制限しているが、家族さんが話しやすい雰囲気づくり、こまめに連絡を取るようにしている。			○	
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。(食費、光熱水費、その他の自己負担額、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	○	契約変更時は具体的に説明し理解を頂いている。				
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	○	退居についての説明は契約時説明し理解いただき、その都度理解をしてもらえるように話し合いをしている。				
Ⅲ.地域との支え合い									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域：事業所が所在する市町の日常生活圏、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	○	運営推進会議時に事業所について説明し地区の区長さんを中心に理解を頂いている。		◎		地域の自治会に加入している。今秋も近くの保育園の運動会に参加できなかったため、10月には保育園の園児が駐車場まで来て、踊りを見せてくれた。米は地元農家から購入しており、野菜についても毎週火曜日に新鮮な旬のものを持って来てもらっている。野菜は職員も購入している。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	○	コロナ禍で地域行事への参加は遠慮しているが、地区からのお話や情報は入れて頂いている。最近保育園児が訪問して踊りを披露して下さり皆さん喜ばれていた。		○	○	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	○	運営推進会議時に参加者へお願いし浸透してきているように思われる。				
		d	地域の人が気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	○	コロナ禍でお互いの接点は減少しているが、野菜を届けて下さったり、年末の掃除への参加依頼があった。				
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りてもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	○	感染予防時期なので頻りに訪問はないが挨拶程度は継続出来ている。				
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	○	入居者との直接の接触は控えているが、掃除などの支援は受けている。				
		g	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得て、安全で豊かな暮らしができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店、スーパー、コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	○	感染予防も他施設との交流は控えている。今年は近のスーパーから訪問販売の依頼がありお買物を楽しんだ。				
40	運営推進会議を活かした取組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	○	地域の人たちの参加はあり今年度は2回施設で開催できて、施設内を見学して頂いた。新規メンバーもおられグループホームを見学できい経験になったと喜ばれていた。	○		△	区長、民生委員、保育所、近隣住民、町担当者等の参加を得て、この一年間では3回(R3.11、R4.5、R4.9)集まる会議を行った。その他は議事録(報告書)の送付にとどまっている。 議事録(報告書)には、利用者の状況、活動状況等を記載している。評価の取り組み報告については、外部評価実施後に評価結果をまとめたものを報告書に記載して報告している。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告するとともに、会議で出された意見や提案等を活かした結果等も報告し、議事録を公表している。	○	施設の現状報告、外部評価の内容も報告し理解を頂いている。		◎	△	
		c	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	○	次回開始日を報告しできるだけ参加いただけるよう声掛けし、臨機応変に対応している。		◎		

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
IV.より良い支援を行うための運営体制									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	○	理念について共通認識が保てるよう毎月のスタッフ会時に社長を交え話し合う機会を設けている。				
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	○	毎月のお便りに理念を掲載し理解していただくよう努力している。推進会議メンバーにもお便りを配布した。	○	○		
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者：基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	○	スタッフ会時意見を求めたり管理者からの報告を受け実際の状況を把握してもらっている。個人的に今年も面談を予定されている。				法人は、タブレット端末の導入や冷蔵庫の購入等、職員からの提案を採り入れており、管理者は職員のストレスの軽減につながっていると考えている。職員同士の仲が良く、協力的であることで働きやすい職場になっていると職員は話していた。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	○	スタッフ会時に訓練や学習ができるよう場面を設け話し合い、実践を行い皆で意見交換を行っている。				
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	○	代表者へ職員個々の意見が届くよう伝えている。職場環境の改善や条件の整備を意見として提出し理解をしてもらっている。				
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	○	代表者は勉強会参加できる環境作りや情報を提供してくれている。				
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	○	毎月のスタッフ会時参加され意見を聞いてくださっている。今後に期待したい。	○	○	○	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解したうえで、これらが見逃されることがないよう注意を払い、発見した場合の対応方法や手順についても理解している。	○	虐待についての勉強会を委員会を中心に行い、職員全員が周知できるようスタッフ会時に時間を設けている。			○	地域包括支援センター主催の虐待に関する研修等で勉強をして報告書を作成している。また、スタッフ会時に内容を周知している。またスタッフ会時の勉強会で学んでいる。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	○	スタッフ会、申し送り、カンファレンス時話し合いの機会を設けている。日々のケアについてはその都度時間を設けている。場面場面を観察している。				
		c	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	○	毎日のケアの中でストレスがケアに影響が出ていないか観察している。				
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	○	研修会を開催したり文書を回収したり、スタッフ会時に話し合い正しく理解できているか確認している。				
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	○	スタッフ会時に話し合う機会をつくり、何か案件があればその都度話し合う機会を設けている。				
		c	家族等から拘束や施設等の要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	○	家族へは事業所ではいけないことを説明し理解頂いている。				
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを理解したうえで、利用者や家族の現状を踏まえ、パンフレット等の情報提供や相談に乗る等の支援を行っている。	○	現に後見人制度を利用されている案件を参考に理解に努めている。				
		b	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	○	分からないことがあれば専門機関に確認し指導を受けるような連携を築いている。				
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	○	急変や事故発生時のマニュアルは作成し周知してもらっている。				
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	○	看護師訪問時指導を受けたり、実践で役立つよう日々勉強している。				
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手前手の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	○	事故報告やヒヤリハットが出た場合は、報告書を元に今後の対応について直ちに話し合う。				
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	○	話し合いの場より今後に向けて対応策を検討し事故防止に取り組んでいる。				
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	○	マニュアル作成し苦情申し出時は対応に努めている。				
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	○	現在は苦情は寄せられていないが必要時は町にも相談を報告出来るようにしている。				
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	○	速やかに検討しサービスの改善や結果報告、早期に納得して頂けるよう努力している。				

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
48	運営に関する意見の反映	a	利用者や家族が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	○	玄関先に要望や意見を書いて頂けるように用紙を配置し、何かあれば個別にも意見を頂き対応できるようにしている。	◎		○	法人代表者が利用者一人ひとりに挨拶する際に聞くことがある。職員は普段の関わりの中で聞いている。家族には、やり取りをする際に聞いている。 管理者は日々のケアの中で職員の声を聴いている。
		b	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	○	利用者家族から遠慮なく苦情相談ができるよう窓口をもうけ、訪問時には意見を伺っている。				
		c	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	○	スタッフ会時や要望が出たときは施設に訪問され直接話を聞いている。管理者に要望を伝えてもらったり直接連絡貰っている。				
		d	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	○	ひとり一人の意見が聞けるよう考えている。個人的に要望があれば話を聞き、職員の個性を大切にしていけるよう運営に反映していきたい。			◎	
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	○	年に1回実施の自己評価について昨年の反省を元に意義や目的を理解し全員で自己評価に取り組んでいる。				評価結果をまとめたものを運営推進会議議事録(報告書)に記載して報告している。 モニターをしてもらい取り組みは行っていない。
		b	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて、事業所の現状や課題を明らかにするとともに、実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	○	現状や課題を話し合い目標達成計画を作成し達成に向けて取り組んでいる。				
		c	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	○	運営推進会議時話し合い意見を頂いている。町職員も参加されている。	○	○	△	
		d	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	○	次年度の外部評価に反映できるように取り組んでいる。				
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	○	災害マニュアルは作成しいつでも閲覧できるようにしている。今年度は感染症に力を入れて全員に周知している。				年2回、火災想定避難訓練を行っており、内1回は、消防署、防災設備業者、地域の人(区長、民生委員)の協力を得て行っており、地域の人には実際に、連絡をして事業所まで駆けつけてもらうような訓練も行っている。 7月には風水害想定避難訓練を行っている。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	○	夜間、日中想定避難訓練、災害時の対応など訓練時指導を頂いたり皆で話し合っている。				
		c	消火設備や避難経路、保管している非常食・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	○	年2回の消火設備点検・避難経路確認、非常食など点検を行っている。				
		d	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	○	合同の訓練ができるよう今後の機会を検討している。	○	○	○	
		e	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	○	地域からの養成があれば積極的に参加したい。避難場所として活用して頂きたいと思っている。推進会議を利用し地域の区長さんへは依頼している。				
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	○	認知症のケア実践に向け情報を発信していきたいが現在は推進会議参加者へ困難症例やコロナ禍の対応等話し合っているにとどまっている。				運営推進会議メンバーから相談を受けることがある。9月の集まる運営推進会議の折に、法人代表者から事業所は介護相談ができる場所であることを説明している。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	○	地域の家族からいるんなケースで相談を受けることがありその都度相談に乗れるよう支援している。		△	○	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	△	利用者の生活の場である為地域への開放は難しい点もあるが、近くの集会所等を利用し入居者と地域住民との交流を持っていきたい。				
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	△	介護の人材不足は身に迫っており今後に向け研修、実習の受け入れ要望など代表に出している。				
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	△	町や地域包括より情報を頂き今後に向け努力していきたい。			△	